

「平成22年度普及に移す成果」

不耕起乾田直播の低コストな雑草防除法

農業総合センター農業研究所

不耕起乾田直播栽培では、乾田期に出芽前と出芽後入水前の2回雑草防除を行うため、除草剤費が高いことが問題になっています。そこで、安価な除草剤を組み合わせ、低コストで効果的な雑草防除技術を確立しました。

「カルナクス」と「ノミニー液剤」の組み合わせによる低コスト除草体系

出芽前に非選択性除草剤「カルナクス」、出芽後入水5日程度前に茎葉処理剤「ノミニー液剤」を散布することで、慣行の「ラウンドアップハイロード」+「クリンチャーバス ME 液剤」体系と同等の除草効果が得られます。

この除草体系により、乾田期の除草剤費は50%程度削減することができます。

除草体系	残草量 ¹ (無除草区対比)	10aあたり除草剤費 ² (慣行対比)
カルナクス + ノミニー液剤(低コスト)	2.0%	2,232円(46)
ラウンドアップハイロード + クリンチャーバス ME 液剤(慣行)	3.6%	4,886円(100)

1 残草量は初中期一発剤処理前の調査結果

2 「カルナクス」、「ラウンドアップハイロード」は250ml/10a、「ノミニー液剤」は150ml/10a処理で計算(H21年価格)



【低コスト】



【慣行】



【無除草】

「カルナクス」+「ノミニー液剤」

「ラウンドアップハイロード」+「クリンチャーバス ME 液剤」

「ノミニー液剤」による薬害は一時的なものです

「ノミニー液剤」は、処理後の水稻に薬害を生じさせることがあります。症状は「葉の黄化」や「茎数の抑制」です。この症状は一時的なもので、水稻の収量に影響を及ぼすほどではありません。ただし、気温が高いとき(30℃程度)は薬害が大きくなりやすいので、定められている使用量(100~200ml/10a)の範囲内で少なめの薬量を散布してください。

雑草の種類による除草剤の使い分け

「ノミニー液剤」と「クリンチャーバス ME 液剤」では、雑草の種類によって効果が異なります。「ノミニー液剤」はイボクサ、ハキダメギク等に、「クリンチャーバス ME 液剤」はオオニワホコリ、オオクサキビ、トキンソウ等に効果的です。ノビエはどちらの除草剤でも効果的に防除できます。前年に発生した雑草や処理前の発生雑草をよく観察して、効果の高い除草剤を選んでください。

掲載した内容は、平成22年4月30日現在の農業登録に基づいています。

実際に農薬を使用する場合は、農薬のラベルに記載されている使用方法及び使用上の留意点等をよく確認してください。

問い合わせ先：農業研究所作物研究室

TEL:029 - 239 - 7212